

教学 IR 室 広報誌 *Bloomin'*



土岐川を眼下に望む瑞浪キャンパス



2023
Sep.29
Vol.2

標高 2,191m の恵那山に見守られた中津川キャンパス

第1回 学長ワークショップ開催!!

6月30日、第1回学長ワークショップが開催されました。

昨年度実施した学生座談会の進化系として誕生したこの企画は、運営等を教学 IR 室が担っています。

室長である学長が全体のファシリテーターとなり、ワールドカフェ形式で行った今回のテーマは「在学生から観た『本学の魅力・価値』とその進化・深化」ということで、学生達が主体的に創造できるよう、教員が淹れたおいしいコーヒーを飲みながら、他の教員と協力しながら進めることができました。参加した学生からは「大学全体でコミュニケーション力を高め、深める学び」、「コミュニケーション力を土台にして、誰もが安心してチャレンジできる場の増加」といった提案がなされ、こちらをもとに今後の教学改善を図って参ります。

次回は9月26日 テーマ「学生が出席したい価値ある授業とは?その創意工夫とは?」を瑞浪キャンパスで行います。



Pick up! IRレポート



第2回目のピックアップ分析は2023年7月に公開しました「第23回 IR レポート」です。テーマは「全学的な休学・退学・除籍の発生状況とその理由」でした。それら該当者数の増減は教育の質を評価する上でも重要な指標です。

2022年度の休退学除籍者数を2018年度から2021年度のその平均値と比較しますと、表が示すように経営学科はすべての項目で改善が見られました。その一方で、その他の学科にはおいては改善が見られた項目もありますが、悪化した項目もありました。今後の対策として健康面でのサポートや、より魅力のあるカリキュラムの提供等を提言しました。

本学のコンセプトである「いつも学生と共に～Here is second home for you～」が掲げるように、入学した学生に対してわが子同様に愛情をもってコミュニケーションできるよう教職員一同これからも心がけていきましょう!

	2022年度			在学	2018-2021年度							
	人数(%)	人数(%)	人数(%)		休学	退学	除籍	標準	標準	標準	標準	
	休学	退学	除籍		平均	標準	平均	標準	平均	標準	平均	標準
						偏差		偏差		偏差		偏差
経営	0 (0.0%)	16 (4.1%)	24 (6.1%)	392	2.8	1.5	27.5	5.0	27.8	3.9		
看護	17 (7.9%)	17 (7.9%)	0 (0.0%)	214	6.0	2.1	9.3	2.7	0.3	0.4		
健康栄養	1 (1.6%)	9 (14.5%)	3 (4.8%)	62	2.8	0.8	8.0	4.6	5.5	2.6		
保育	3 (3.2%)	2 (2.2%)	1 (1.1%)	93	2.8	1.8	4.0	1.9	0.5	0.9		

第23回レポート教職員座談会より(8/24開催)

看護学部は現状二極化している。成績優秀者の満足度を上げることが大切であり、上位層にはトップレベルのことを教え、下位層にはサポートをしっかり行い4年以上かかってもフォローする。教育の質を担保し、ついていくことが難しい学生をどうサポートするのかが課題。どのような方向性で進めていくのかという共通認識をもたないと同じことの繰り返しとなる。etc.

IR室第23回レポート、p1より

教学 IR 室からのご報告

◆大学間連携に関する協定締結

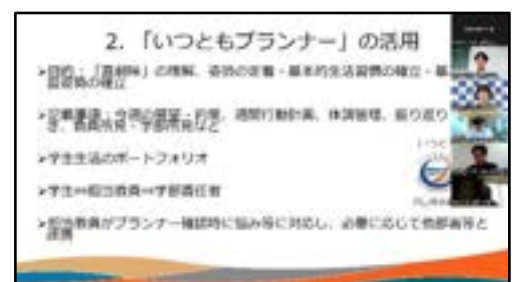
2023年8月9日、九州共立大学及び九州女子大学・九州女子短期大学と協定を締結しました。締結式は福岡県北九州市にある学校法人福原学園にて行われ、本学からは安達理事長、林学長、大須賀准教授が参加しました。協定の連携内容は「学生間及び教員間の交流」、「地域連携活動の情報共有」、「教学IRの推進」に関する内容となっています。締結式後は九州共立大学のキャンパスをご案内いただきました。今後は協定に基づき、魅力ある継続的な連携推進を目指して参ります。

◆第2回 中京学院大学主催合同 IR 研修会

2023年9月1日「第2回中京学院大学主催合同 IR 研修会」が開催され、昨年度行われた本学主催の合同 IR 研修会よりも多くの大学の実務担当者様にご参加いただきました。研修会の主なプログラムは、事例報告・コンサルティング・ミニシンポジウムから構成されました。

本学は事例報告の中で2023年度の実践的取組事例として Bloomin' や学長ワークショップを取り上げ、コンサルティングセッションでは九州共立大学様の抱えている課題に対して①面談指導の取り組みとその分析結果の活用方法と②いつもプランナーの活用方法を教学 IR の知見と関連付けながらコンサルティングを行いました。また本学教職員によるミニシンポジウムでは「建学の精神の具現化につながる教学 IR」と「現場レベルでの教学 IR の活用の在り方」をテーマに議論を交わしました。

無事研修会を終えることができ、参加大学及び本学の教職員の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。



短期大学部1年次科目、基礎演習Ⅰでは、4つの力11の要素の中の「コミュニケーション力」を養うとともに「建学の精神」「真剣味サイクル」について学ぶ科目です。この科目は健康栄養学科、保育科の基礎演習Ⅰ、経営学部の基礎ゼミAにおいて同様の内容で実施しており、経営学部、短期大学部共通科目として昨年度より展開しています。

基礎演習Ⅰは、大きく3つのパートに分かれています。①コミュニケーション力では多様性、表現力、承認、傾聴について学び、考えます。②理念では建学の精神、真剣味サイクルと4つの力11の要素の理解を深め教育方針の理解と大学生活での目標設定をおこないます。そしてこの講義の最大の特徴は、③プレゼンテーション力です。学生が発表したい内容を決めスケッチブックで発表資料を作成し発表します。学生が発表内容を決めることや、あえてスケッチブックを使用する理由は、多様性の尊重を表現しています。これまでの人生で出会った人や知識、経験など、さまざまなインプットがあり、ひとりの人間の中にもいくつもの側面があることを互いに理解し、お互いを尊重することを目的としています。これらは手書きだからこそ個性が表現しやすくデジタルにはない温かさもあわせて表現しています。

授業内での発表上位者は、学部、学科の代表となりプレゼンテーション大会「彩-イロドリ-」の代表として出場します。学生のプレゼンテーション力向上につながるよう授業だけで終わることなく継続的な学びのために「彩-イロドリ-」が誕生しました。今年度は、フリーアナウンサーの西村さんに事前指導をしていただき、さらに発表に磨きをかけて当日を迎えました。発表した学生は指導を受けた箇所を修正して最高の発表を見せてくれました。さらに「彩-イロドリ-」の入賞者は大舞台での発表の場として学位授与式、入学式後に発表の場を設け一年を通してプレゼンテーション力を高めていきます。

「中京学院大学に入学するとプレゼンテーションに強くなる」

基礎演習Ⅰはこの大学の特色の一つを具現化する科目として設計されています。ぜひ学生の成長していく姿を見てください。

短期大学部健康栄養学科 准教授 伊藤宏支



特別審査員:フリーアナウンサー
西村千穂さん

優勝:健康栄養学科
長谷川小春さん

CHUKYO VOICE

～ 本学に関わる様々な人の声をお届けします ～

2020年に本学看護学部を卒業し、現在は国立循環器病研究センターで看護師として働いています。学生のころから循環器看護が好きで、専門性の高い循環器看護師に憧れて就職しました。今は心臓血管外科のICU病棟で超急性期看護を行っています。

本学に入学して良かったことは、志の高い友人に出会い、勉強も遊びも謳歌できたことだと思います。私は高校生のころまで、勉強を得意としてこなかったのですが、中京学院大学に入学し出会った友人や教員に恵まれたことで学ぶことが楽しくなりました。在学中には、同期の友人とともに「看護研究会」というサークルを立ち上げました。実習や国家試験の学習など共に学び、切磋琢磨していた日々はとても良い思い出です。学生の頃に自由に学ぶ楽しさを覚えたことで、看護師として働くようになって、より専門性の高い資格を習得し、活動させてもらっています。新しいことに取り組み、自らの活動を結果として示すといったスキルは、いままも活かされていると思います。



近藤政樹さん(2020年卒)

自分がやりたいことをトコトン挑戦できる大学です。また個々の学生に合わせて教員の方や職員の方がしっかりとサポートしてくれます。そのため、学生のうちに気になることや学ぶことを見つけたらチャレンジしてみてください。

令和5年度認証評価について

今年度は短大・大学のW受審年ということで、以下の日程で一般財団法人 大学・短期大学基準協会に任命された4名の評価員が来学され、実地調査が行われます。

短大) 9月6日、7日 ALO: 村瀬孝宏 (短期大学部保育科)

大学) 9月28、29日 ALO: 高畑正子 (看護学部)、

ALO補佐: 池田ひでみ (経営学部)

この調査では、先に提出した自己点検評価報告書の基準Ⅰ～Ⅳに分けヒアリングがあり、教学、運営の全てを審査されます。肝心なのは、後日、日頃の業務を通じて取り組んでいることについて、評価員からどのような指摘や示唆があったのか全体で共有し、教職員一人ひとりが自分事と考え、できることから行動を起こし、今後に向けて改善していくことです。このような姿勢の積み重ねが本学の推奨度向上につながり「全員広報」が実現するのです。この機会に改めて、建学の精神、ミッション・ビジョン、コンセプトコピーに立ち返り、自己の役割を再確認していただきたく存じます。

9/6,7に行われた短大の訪問調査では「大学を取り巻く環境が厳しい現在、どこの大学も苦勞している中で、本学の取組や工夫に励まされた」というお言葉を評価チームリーダーから頂戴しました。評価する側もされる側も、お互いにとって実りあるものとなりますよう、宜しくお願い申し上げます。

本学を理解する上での Bible ともいえる? 教学 IR 室発行の IR レポート創刊号、第二号も是非ご覧ください。

(両キャンパスの図書館にあり)



経営学部 教授 神谷裕子先生

専門分野：ドイツ現代文学

ずばり!意識していることは、学生の良いところを見つける、出した課題に対するフィードバックを必ず行うこと。点数と選択した答えが正解かどうかのみを気にしてそれで終了!という学生が多いため、なぜそこが間違っているのかや、物事の答えはひとつではなく、プロセス・状況・背景等幅広く考えることができることを教えている。世界は広い。ドイツはもちろん、知的好奇心が高まるような文化的な話題やニュース、ウクライナ戦争・難民移民問題・ポピュリズムがなぜ人気なのか…等、タイムリーなものを取り入れながら自分事として捉えることができるような授業展開を行っている。

また、モチベーションの低い学生や反応のない者に対しては決してあきらめず、関心を持ってくれそうな内容でしっかり聴いていないと答えることができない課題を出す等工夫をしている。

面談では、思っていることを言葉にすることが苦手な学生が多く、彼ら自身から返ってくる言葉の少なさから傾聴し引き出すようにしている。生活面など多方面から質問することでみえてくるものがある。コミュニケーションをとるうえで気を付けていることは「否定しないこと、どのような状況であっても最初から頭ごなしに咎めることをしない」。コミュニケーションとは、明るく楽しく話すことではなく、どんな立場の人とも話し、説明することができるということであり、とても幅広い。

経営学部開学時から今日に至るまでずっと見守り続けてこられた先生が、学生達に求めることは「どんなことも基礎がなければ応用もできないため、積み重ねが大切。学生が活躍できるフィールドを与え経験させること。それが発展のカギだと思います。」と。

ふんわりと優しい雰囲気先生に秘められた、学生への深い愛情を感じることできたインタビューとなりました。Danke schön!



キラッと光る★文武両道学生コーナー

経営学部4年 神尾拓真さん

(男子ソフトボール部所属、千葉敬愛高校出身)

この4年間を一言で表すと「出会い」だという。出会いが繋がりが広がって、今の自分がある。いろいろなことに挑戦することが好きで、+αでどのようにすればよいのか考えることができるようになったとのこと。

コロナ禍で入学式もなく、6月からのWeb授業という手探りの中での大学生活には出鼻をくじかれた感じだった。が、2年生の秋に対面実施となった専門特別講義(アスリートミーティング)は、その後の学生生活を大きく変えたものとなった。そこには「大学にこんな前向きで頼もしい先生がいるんだ!」という林勇人先生の魅力に惹き込まれ、自ら先生をナンパし?、気がつけばあれよあれよという間に沼にはまっていたのだ。(総合型地域スポーツクラブ中京学院大学クラブ執行役員、各種行事の司会、授業のSA等々)

課外活動では、高校時代からソフトボール部に所属。ピッチャーとしての結果を出せていなかった自分に声をかけ、何度も遠方から大会に足を運んでくれた和田正志監督(本学職員)には感謝してもしきれない。未だになぜ自分だったのだろうか?と思っている。入学後は、学連の庶務として他大学の担当者やソフトボール協会の理事とかけ合う等の貴重な経験もすることができた。

一番最初に中津川駅に降り立った時は「とんでもない田舎に来てしまった…大丈夫か?」という不安しかなかった。しかし今では、他大学の友人にも誇れる本学ならではの経験を多く積み、胸を張って卒業できるという。

卒業後は地元での就職が内定している。持ち前のチャレンジ精神と周囲を明るくさせるさわやかな笑顔で、皆に愛されながらどんなことも乗り越えていってくれることだろう。



本学の歴史は「中京短期大学(家政科、保育科)」の開学(1966年)から始まりました。

短大設置は、先に開学した中京高等学校の卒業生が進学できる先を作りたい、との思いから実現したものです¹。その後、学科拡充のため中津川新校舎を建設し保育科を移転(1974年)し、瑞浪校地(家政科)と中津川校地(保育科)の両拠点を擁し規模を広げた中京短大は、定員増をからめながら施設拡充を行い、瑞浪校地に経営学科(定員150名・男女共学制)を増設

(1986年)しました。国際化、情報化への対応能力を持つ経営担当者を育成し、地元への貢献をはかろうとするための設置でした²。この点について、和木は「大きく雰囲気を変えることになる一大改革」³と述べています。

その後、将来の四年制大学設置を見据え、保育科を瑞浪校地へ、経営学科を中津川校地に移転(1990年)すると、時同じくして若者の地元定着、県内外からの人材導入のため、地場産業ひいては地域の振興・活性化のため四年制大学を誘致したい中津川市の市政と合致し、1993年、中津川校地に四年制大学「中京学院大学(経営学部経営学科)」が開学しました。大学設置は、中津川市を中心とする恵那市、瑞浪市、土岐市、多治見市の東濃5市から寄付金を賜り実現したものです⁴。

中京学院大学の開学は、「地域における『知』の拠点を現実させる」本学のビジョンの幕開けでもあります。

注

- (1)和木康光(2000)『学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ—安達学園物語—』学校法人安達学園 p.120.
- (2)同上、pp.160-165, p.227.
- (3)同上、p.227.
- (4)同上、pp.238-244.



Photo:50周年史誌編集委員(2013)『学園のあゆみ—学校法人安達学園創立50周年記念誌—』p.60. 学校法人安達学園

編集・発行

中京学院大学

教学IR室 広報誌 Bloomin'

第2号 2023年9月29日発行

〒509-9195 岐阜県中津川市千旦林1-104

TEL:(0573)66-3121

URL:https://www.chukyogakuin-u.ac.jp/

E-mail:ir-room@chukyogakuin-u.ac.jp

Bloomin'とは?

種を蒔き、芽が出て膨らみ花開くように、教学IR室の様々な発信が本学の発展につながるよう願いをこめてつけました。

